



令和7年度 第6号 令和7年6月24日(火)

交通ルールを守ることが 自分の命を守ることにつながります

6月10日(火)に、伊勢崎警察署の警察官1名と三郷地区の交通指導員さん3名を講師としてお招きして、1年生と4年生を対象にそれぞれ交通安全教室を実施しました。

1年生については校外を歩いて学校へ戻ってくる歩行練習、4年生については校庭での自転車走行練習を予定しておりましたが、あいにくの雨天でいずれも実施できず、講話とビデオ視聴を中心とした体育館での実施となりました。

1年生へ向けては、横断歩道の安全な渡り方や歩道のない狭い道の歩き方、雨の日の傘の差し方などを教えてもらいました。歩行者用信号機の模型を提示したり道路の絵画に路側帯を図示したりして、視覚的な理解を促してくれました。4年生へ向けては、安全な自転車の乗り方を教えてもらいました。実物の自転車を活用して安全点検の方法や身体に合った自転車の大きさ、事故に遭わない乗り方などを実感的に理解できるよう工夫してくれました。1年生・4年生の全員が警察官の方の話をしっかりと聞き、「交通ルールを守ることが自分の命を守る」ということを肝に銘じたことと思います。

本校の校区内には、道幅が狭いにもかかわらず交通量が多い道路や堀・生け垣で見通しの悪い交差点など小学生にとって危険な場所が多々あります。交通安全教室で学んだことを実践して、事故に遭わないよう願うばかりです。



ミストシャワーで少しは涼を…

6月中旬に梅雨入りの発表がありましたが、雨の合間の晴れた日は夏本番を感じさせる強い日差しで朝からかなり暑くなります。そのような暑い日には、児童玄関上部に設置してあるミストシャワーを稼働させ、屋外に出る際や外から教室等へ戻る際にクールダウンできるようにしています。ミストシャワーを浴びた児童からは「ちょっと冷えて気持ちいい」「少し濡れるけど、すぐ乾くので大丈夫」などの声が聞こえました。暑い日にはミストシャワーで身体を冷やして少しでも熱中症の予防になってくれれば…と思っています。



様々な人に支えられて学校は成り立っています

学校において児童と日常的に接する機会が多いのは、担任を中心とした教員ですが、ご存知のとおり、児童の学校生活は教員以外の多くの人の支えによって成り立っています。その一例として、労務技士の仕事があります。本校には2名の労務技士が勤務しております。給食準備や設備補修などの他に、児童が登校した後に門扉を閉じたり校庭の除草や整地をしたりなどと児童の安全確保のために日常的に尽力しております。また、校地東側際に植えられているメタセコイヤの



下枝の伐採や体育館への外通路のスノコの補修など必要に応じて適時的な作業にもあたっております。スノコの補修では、ササクレていた表面をグラインダーで研磨して平らにしたり複数のスノコの高さを調整して段差をなくしたり剥げていた塗装を塗り直してきれいにしたりと、スノコを歩く児童がけがをしないよう丁寧に作業していました。

学校生活を安全に過ごせるよう働いてくれている身近な人々の存在や働きに気づき、その方々へ感謝の念がもてるような三郷っ子に育ってほしいと願っています。

毎朝、当番活動をがんばってくれています

毎日、学級委員の児童の皆さんが、校舎南側にある掲揚台に国旗・市旗・校旗のそれぞれを朝の登校時には掲揚し、帰りの下校時には降納しています。掲揚する際には、旗が風にあおられて飛んでいかないように旗の紐を掲揚用のロープにしっかりと結んでくれたり、降納する際には、ロープをポールに巻き付けながら固定し乱れないようにしてくれたり、細かなことに留意しながら丁寧に役割を果たしてくれています。児童代表が学校のシンボルである校旗を掲揚したり降納



したりすることは意義深いことと思います。そのほかにも体育委員による体育倉庫の鍵開け、放送委員による朝の全校放送、学級委員による児童玄関目前でのあいさつ運動など多くの児童が毎朝、学校生活を円滑に過ごせるよう当番活動に勤しんでくれています。委員会活動とはいえ、毎日続けることは大変とは思いますが、今後もよろしくお願いします。

税の役割や納める大切さを学びました

6月12日(木)に伊勢崎市法人会から講師をお招きして、6年生を対象とした租税教室を行いました。最初に、税の種類や徴税額などをクイズ形式で学び、その後、税が社会の中で果たしている役割を考えました。児童の多くは税の必要性は何となく分かっているけれども詳しいことは分からないといった感じですが、具体的に自分の生活と結び付けることで税の大切さを理解できたようでした。最後には模造の1億円の札束を持たせてもらい、税金の重みを実感したようでした。将来的には納税者として社会を支える一員になる自覚が少し芽生えたように見えました。

